

地域教会とは何か（1）

イントロダクション

1. 教会とは何か（復習）

(1) 教会という言葉と定義

- a) 教会はギリシャ語で「エクレシア」。これは会衆を意味する言葉である。
- b) 聖書的な教会の定義は「この世から呼び出された人々」である。
- c) 教会という概念は、普遍的教会と地域教会に区別することができる。

(2) 普遍的教会

- a) ペンテコステの日から携挙までの信者全体のことである。
- b) 目に見えない教会である。
- c) 礎石はキリストであり、土台は使徒たちと新約の預言者たちである。
- d) 教会は「キリストの体」や「神の宮」に例えられている。
- e) 各信者が教会を建て上げる重要なパーツである。

(3) 地域教会

- a) 特定の地域にある教会を指す。
- b) 目に見える教会である。

2. アウトライン：地域教会の3つの特徴と補足事項（今回は1と2を学ぶ）

(1) メシアを信じる人々の集まり

(2) 組織化された信者たちの集まり

- (3) 神の御心を実行する信者たちの集まり
- (4) 補足：具体的指示のない事柄について

3. 結論：「一匹狼クリスチャン」の限界

I. メシアを信じる人々の集まり

1. 地域教会の第１の特徴

- (1) 私たちが「地域教会」と呼ぶのは、メシアを信じ、洗礼を受けた人々による、目に見える実際の集まりのことである。
- (2) 聖書では、メシアを信じる者になっても水の洗礼を受けないということは、想定されていない。

2. 普遍的教会と地域教会の区別

- (1) 聖書では、普遍的教会と地域教会／目に見えない教会と目に見える教会という区別は、それほど強調されていない¹。
- (2) ペンテコステの日から携挙までの信者の総体（キリストの体）は、目に見えない「エクレシア」である。それが目に見える形で表れている実際の集まりもまた「エクレシア」である。
- (3) ただし、聖書の記述から教会論を整理するとき、概念上の区別は有益である。

3. パウロ書簡から、聖書における「地域教会」を考える。

- (1) キリストの諸教会：目に見える信者の集まり全体（ロマ 16:16）
- (2) ○○の諸教会：ある地方における信者の集まり全体
 - 例）ガラテヤの諸教会（ガラ 1:2）
 - ユダヤの諸教会（ガラ 1:22）
- (3) ○○の家にある教会：ある信者の家で持たれている集まり
 - 例）アキラとプリスカの家の教会（ロマ 16:-5；1 コリ 16:19）
 - ニンパの家にある教会（コロ 4:15）
 - ピレモンの家にある教会（ピレ 2）

(4) まとめ：「地域教会」に関する三重の概念

- a) 信者たちの目に見える集まりの総体
- b) ある地方における信者たちの集まりの総体
- c) ある家で持たれている信者たちの各集会

4. 初代教会における地域教会の姿

(1) 家の教会

- a) 現代では、会堂を所有せず、ある信者の家で集会を持つスタイルの地域教会が「家の教会」と呼ばれている。
- b) クリスマンたちの組織が社会的・政治的にも力を持つようになるまでは、地域教会の主な姿は「家の教会」スタイルだった²。

(2) 使徒の働き 2:46-47

- ⁴⁶ そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、⁴⁷ 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。
- a) 初期のエルサレム教会の様子である。
 - b) 「家々」で聖餐式や賛美を行っていた。

(3) コリント人への手紙第一 16:19

アジアの諸教会がよろしくと言っています。アキラとプリスカ、また彼らの家にある教会が、主にあって心から、あなたがたによろしくと言っています。

- a) アキラとプリスカの夫婦は、家で教会の集いを持っていた（ロマ 16:3、5 参照）。

(4) コロサイ人への手紙 4:15

どうか、ラオディキアの兄弟たちに、またニンパと彼女の家にある教会に、よろしく伝えてください。

- a) ラオディキアでは、少なくともニンパという婦人の家で集会が持たれていた。

(5) ピレモンへの手紙 1-2

¹ キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、私たちの愛する同労者ピレモンと、² 姉妹アッピア、私たちの戦友アルキポ、ならびに、あなたの家にある教会へ。

- a) コロサイでは、少なくともピレモンの家で集会が持たれていた³。

(6) 各都市における家の教会の数

- a) 少なくともエルサレムでは、複数の家の教会があったと思われる（使 2:46）。
- b) 「〇〇の諸教会」と言われる場合（例：ガラ 1:2；1:22）、その地方に複数の家の教会があったということであろう。
- c) 町ごとにも複数の家の教会が存在する場合が多かっただろうが、聖書にはあまり明確な記録がない。

(7) 地域教会同士の集会

コリント人への手紙第一 14:23

ですから、教会全体が一緒に集まって、皆が異言で語るなら、初心の人か信じていない人が入って来たとき、あなたがたは気が変になっていると言われることにならないでしょうか。

- a) 「教会全体」(the whole church)という言葉は、ある集会全体とも考えられるが、いくつかの教会が集まっていると捉えることもできる（参照：ロマ 16:23）。
- b) 家の教会同士が集まる機会が持たれていたと推測する学者もいる⁴。
- c) ジェームズ・D・G・ダン（英国の新約聖書学者）の見解

「1 コリ 16:19 と 14:23 を合わせて考えると、ここには、散在するより小さな家のグループ同士による教会の集まりが含意されていると思われる。これは、より頻度の低い（週ごと、もしくは月ごと？）『教会全体』の集まりであった。」⁵

5. キリストにある家族としての地域教会

- (1) 地域教会が本来「家の教会」であったことは、この共同体が家庭的な姿を持っていたことを想起させる。

(2) ガラテヤ人への手紙 6:10

ですから、私たちは機会があるうちに、すべての人に、特に信仰の家族に善を行いましょう。

- a) 信仰の家族 = the household of faith (English Standard Version)
- b) メシアへの信仰を持つ人々は、その信仰にあって「家族」と見なされている。
- c) 聖書は地域教会を「キリストにある家族」として例えている⁶。

(3) テモテへの手紙第一 3:15

たとえ遅くなった場合でも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたに知っておいてもらうためです。神の家とは、真理の柱と土台である、生ける神の教会のことです。

- a) 神の家 = the household of God (English Standard Version)
- b) 地域教会は神にある家族である。

(4) テモテへの手紙第一 5:1-2

¹年配の男の人を叱ってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人には兄弟に対するように、²年配の女の人には母親に対するように、若い女の人には姉妹に対するように、真に純粋な心で勧めなさい。

- a) 地域教会における信者同士の交わりが、家族の交わりに例えられている。

(5) まとめ

- a) 地域教会は、キリストにあって救われ、キリストの体に連なっている人々の集まりである。
- b) 地域教会の中では、キリストにある霊的な兄弟姉妹たちが、家族のようにして互いに仕え合う。
- c) 家庭的連帯感によって、キリストの体としての一体性を表現していく。

6. 聖霊の賜物による相互依存

(1) 地域教会では、信者が互いに仕え合うために聖霊の賜物が用いられる。

(2) 各信者には、キリストの体を建て上げていくために聖霊の賜物が与えられている。

エペソ人への手紙 4:11-12

¹¹ こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。¹² それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。

コリント人への手紙第一 12:11-13

¹¹ 同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです。¹² ちょうど、から

だが一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。¹³ 私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。

ローマ人への手紙 12:4-8

⁴一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きをしてはいないように、⁵大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです。⁶私たちは、与えられた恵みにしたがって、異なる賜物を持っているので、それが預言であれば、その信仰に応じて預言し、⁷奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教え、⁸勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれを行いなさい。

※聖霊の賜物のリストとしては、1 コリ 12:8-10、28-30 も参照のこと。

- (3) 各信者には、賜物を用いて互いに仕え合うことが求められている。

ペテロの手紙第一 4:10-11

¹⁰ それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。¹¹ 語るのであれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。すべてにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。この方に栄光と力が世々限りなくありますように。アーメン。

- (4) 地域教会で聖霊の賜物を用いていくに当たって

- a) 賜物は、キリストの体を建てるために与えられている。よって、自分の賜物は信者同士の交わりの中で発見していく。
- b) 聖書に書かれていない賜物（賛美の賜物など）が存在する可能性はある⁷。しかし、原則として、聖書に教えられていない種類の賜物を求めないこと。
- c) まずは、交わりの中で、自分にできることをしていくことをお勧めする。

II. 組織化された信者たちの集まり

1. 組織としての地域教会

- (1) 各地域教会は、リーダーたちの下で自主独立した組織である。
- (2) 地域教会におけるリーダーシップ
 - a) クリスマンは一人ひとりが祭司の役割を担っている（万人祭司説）。
 - b) だからといって、リーダー（牧者）が必要ないというのは非聖書的である。
 - c) 聖書は、各地域教会におけるリーダーシップの必要性を教えている。
- (3) 地域教会の政治形態
 - a) 現代においては、地域教会の政治形態が複数存在している。
例）長老制、民主主義政治の教会（会衆制）
 - b) ここでは、聖書から最低限分かることを学んでいく。

2. 長老

- (1) 長老とは、各地域教会における指導者のことである。
 - a) ギリシア語で「プレスビューテロス」。実際の老人や、権威ある地位も指す。
 - b) ユダヤ社会では、氏族ごとの指導者、会堂での役職、最高議会の議員などにこの言葉が用いられていた。
 - c) 他の呼び名 1：監督
聖書箇所：使 20:28；ピリ 1:1；1 テモ 3:1-2；テト 1:7；1 ペテ 2:25
 - d) 他の呼び名 2：牧師
聖書箇所：使 20:28；エペ 4:11；1 ペテ 2:25；5:1-2

- (2) 聖書では、各地域教会で指導者たちを任命することが前提とされている。

使徒の働き 14:21-23

²¹ 二人はこの町で福音を宣べ伝え、多くの人々を弟子としてから、リステラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返して、²² 弟子たちの心を強め、信仰にしっかりとどまるように勧めて、「私たちは、神の国に入るために、多くの苦しみを経なければならぬ」と語った。²³ また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食して祈った後、彼らをその信じている主にゆだねた。

テトスへの手紙 1:5

私があなをクレタに残したのは、残っている仕事の整理をし、私が命じたとおりに町ごとに長老たちを任命するためでした。

- (3) 長老の役割：長老として統治し、監督として監督し、牧師として羊を牧し、養う。

使徒の働き 20:17-28

¹⁷ パウロはミレトスからエペソに使いを送って、教会の長老たちを呼び寄せた。（中略）²⁸ あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。

- (4) 長老の資格：1 テモ 3:2-7；テト 1:6-9

3. 執事

- (1) 執事とは、長老の援助者のことである。

a) ギリシア語で「ディアコノス」。しもべという意味である。

b) 執事は長老に続く役職と見なされていた。

ピリ 1:1「キリスト・イエスのしもべである、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。」

- (2) 執事の資格：1 テモ 3:8-10、12-13

4. 聖書における教会組織の例

- (1) 各地域教会における長老の人数

a) 地域教会の長老は複数である場合が多い（使 14:23；ピリ 1:1；テト 1:5 など）。

b) おそらく、使徒たちの実践的な知恵によるものだったのだろう。

例) 長老が複数いることによってカルト化を防止することができる。

長老が複数いることで、助け合いながら牧会の重責を担うことができる。

c) 地方や町の教会ごとに複数の長老が任命されたのは確かだろう。

d) 家の教会ごとに複数の長老が任命されていたかどうかは不明である。

(2) 羊飼いと羊

ペテロの手紙第一 5:1-6

¹私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じ長老の一人として、キリストの苦難の証人、やがて現される栄光にあずかる者として勧めます。²あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。³割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。⁴そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠をいただくことになります。⁵同じように、若い人たちよ、長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。⁶ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

- a) 羊飼いや羊も、従順と謙遜が求められている。
- b) 羊飼いや羊は共に神に従い、羊は神がお立てになった権威（羊飼い）の下で従うことが求められている。

テサロニケ人への手紙第一 5:12-13

¹² 兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人たちを重んじ、¹³ その働きのゆえに、愛をもって、この上ない尊敬を払いなさい。また、お互いに平和を保ちなさい。

- a) 地域教会のメンバーは、労苦ししている指導者を認める（重んじる）。
- b) 地域教会のメンバーは、指導者に愛をもって心からの尊敬を払う。

5. 地域教会におけるメンバーシップについて

- (1) メンバーシップ：ある組織の構成員であること；そこで各自の役割を果たすこと。
 - a) 地域教会のメンバーシップについて、聖書は制度的なもの（会員制や教会籍など）を定めていない。
 - b) しかし、地域教会に関する聖書の教えは、一定のメンバーシップを前提としている。

(2) 地域教会とメンバーシップ

- a) 地域教会の交わりは、キリストにある家族である。
- b) 地域教会は、羊飼いがいる群れである。
- c) 地域教会では、各構成員がキリストの体を建て上げるために互いに仕え合う。
- d) 地域教会では、構成員が罪を犯した時には懲罰が実行される。
- e) 以上のことは、一定のメンバーシップを前提としている。
- f) 地域教会が御心に従って共同体として歩むとき、構成員各自の心には、健全なメンバーシップが生み出されるだろう。

今回のまとめ

1. 地域教会の第１の特徴：地域教会とは、メシアを信じる人々の集まりである。

- (1) パウロ書簡における地域教会には、三重の概念が含まれている。
 - a) 信者たちの目に見える集まりの総体
 - b) ある地方における信者たちの集まりの総体
 - c) ある家で持たれている信者たちの各集会
- (2) 地域教会は、キリストにある家族である。
 - a) 地域教会は、キリストにあって救われ、キリストの体に連なっている人々の集まりである。
 - b) 地域教会の中では、キリストにある霊的な兄弟姉妹たちが、家族のようにして互いに仕え合う。
 - c) 家族的連帯感によって、キリストの体としての一体性を表現していく。
- (3) 地域教会では、信者が互いに使え合うために聖霊の賜物が用いられる。

2. 地域教会の第２の特徴：地域教会とは、組織化された信者たちの集まりである。

- (1) 各地域教会は、羊飼いがいる羊の群れにたとえられている。すなわち、各地域教会はリーダーたちの下で自主独立した組織である。
- (2) 各地域教会では、指導者として「長老」たちが任命される。
 - a) 長老の役割とは、長老として統治し、監督として監督し、牧者として群れを牧し、養うことである。
 - b) 長老は複数である場合が多い。
- (3) 各地域教会では、長老の援助者として「執事」たちが任命される。

結論：「一匹狼クリスチャン」の限界

1. 聖書は、各信者が地域教会に所属することを前提としている。
 - (1) ペテロの「賜物を用いて互いに仕え合いなさい」という命令は、地域教会に属していることを前提に与えられている。
 - (2) 神は私たちに、「信仰の家族」である地域教会において交わり、愛を実践していくことを求めておられる。

¹ Thomas R. Schreiner, *Paul, Apostle of God's Glory in Christ: A Pauline Theology* (Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 2001), 333; P. T. O'Brien, "Church," in *Dictionary of Paul and his Letters*, eds. Gerald F. Hawthorne and Ralph P. Martin (Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 1993), 124–26.

² Joel Comiskey, *2000 Years of Small Groups: A History of Cell Ministry in the Church* (Moreno Valley, CA: CCS Publishing, 2014), 33ff. Cf. John D. Currid and David W. Chapman, eds., *The ESV Archaeology Study Bible* (Wheaton, IL: Crossway, 2017), 1716. ただし、集まっていた場所が「家」だけであったかは断定できない。

³ N・T・ライト『コロサイ人への手紙、ピレモンへの手紙』ティンデル聖書注解、岩上真歩子訳（いのちのことは社、2008 年）176–78 頁。

⁴ Comiskey, 29–30; James D. G. Dunn, *The Theology of Paul the Apostle* (Grand Rapids, MI: Eerdmans, 1998), 541.

⁵ Ibid.

⁶ O'Brien, 128.

⁷ Wayne Grudem, *Systematic Theology: An Introduction to Biblical Doctrine* (Grand Rapids, MI: Zondervan, 2008), 1022.